

2015年7月 メディカルはこだて第55号 掲載 『ドクタークローズアップ』

小兒科 廣瀬 三恵子 医師

今年4月函館中央病院に着任した廣瀬三恵子医師は小児神経を専門とする小児科医だ。福島県南相馬市生まれの廣瀬医師。病院の事務長だった父親に「女性も手に職を付けるように」と言われてきたことで医師になることを決意。地元の高校卒業後は秋田大学医学部へ進学する。

小児科に最も興味を持ったことで、卒業後は東北大医学部小児科へ入局した。大学関連病院での勤務を経て、平成11年に「臨床の土台となる基礎的な考え方を学ぶため」に東北大學大学院へ入学。大学院では「生まれたばかりのマウスの発達や記憶に薬剤が及ぼす影響を研究してきました」。

経が今まで経験したことのない分野で興味をもつた。平成16年から米国アインシャタイン医科大学で臨床見学も経験する。「米国で小児神経の診療を数多く見学できたことは、非常に有意義な2年間でした」。

平成22年函館五稜郭病院に勤務。同病院では一般小児科も診療してきたが、発達障害など小児神経の患者

が増加、専門分野に特化するため函館中央病院へ診療の場を移した。小児神経は、てんかんや精神運動発達遅滞などの小児神経疾患全般と発達障害などに分かれるが、廣瀬医師は主に発達障害を専門に診療を行っている。

知能の遅れを伴わない発達障害の代表的なものには、限局性学習症や自閉スペクトラム症、A D H D (注意欠如・多動症)などがある。

「こうした障害をもつ子どもたちは知能に遅れはないために、日常生活や学校生活で困難な状況があつても

説明し保護者に診断を受け入れてもらうことからスタート。子どもに合った学習や環境を見つけ、子どもに自信をもつてもらうこと。それと同時に保護者の意識の切り替えも必要です」。発達障害をもつていると考えられる著名人にはエジソンやアインシュタイン、スピルバーグ、黒柳徹子など数多い。「子どもは認められ、讃められることで自信がつき、その子のもつ最大限の力を發揮できるようになります。保護者にはそのことを理解してもらえるよう努めています」。

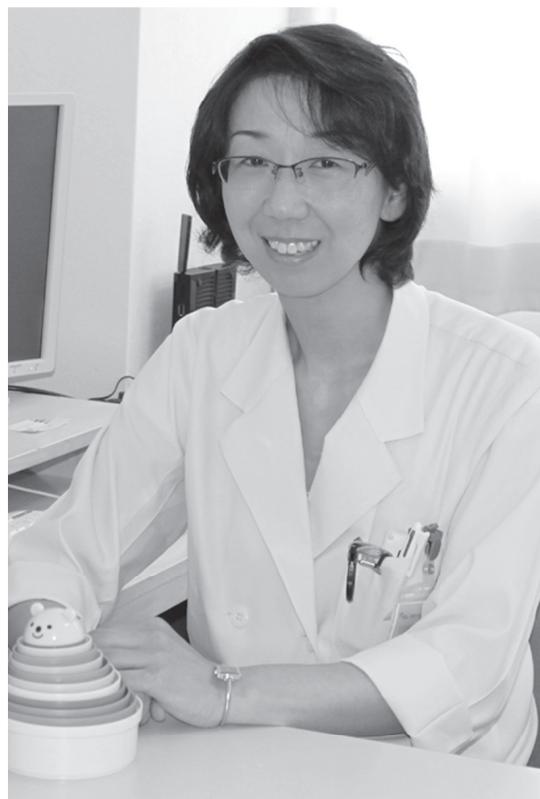
発達障害など小児神経を専門とする小児科医
子どもは誉められることが自信へとつながります

DOCTOR

ドクター クローズアップ closeup ②

函館中央病院小児科医師

廣瀬三恵子氏



ひろせ みえこ
平成9年秋田大学医学部卒業。同年岩手県立中央病院を経て
平成11年東北大学大学院入学。平成15年東北大学大学院卒業。
平成18年東北大学病院非常勤講師。平成22年函館五稜郭病院、
平成27年函館中央病院に勤務。現在に至る。

日本小兒科学会専門医

日本小児神経学会専門医

障害とは気づかず、必要なサポートを受けることができずに困っていることがある」と廣瀬医師は教えてくれる。「ときには親の育て方に問題があるとの誤解

も受けやすいなど、保護者が辛い思いをしているケースも少なくありません」。